



平成 21 年 10 月 29 日

各 位

会 社 名 大日本住友製薬株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 多田 正世  
 (コード：4506、東証・大証第 1 部)  
 問合せ先 広報部長 樋口 敦子  
 (TEL. 06-6203-1407)

**平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異  
 および通期業績予想の修正に関するお知らせ**

平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせします。  
 また、最近の業績の動向を踏まえ、通期業績予想を修正しましたので、併せてお知らせします。

(金額の単位：百万円)

1. 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想との差異 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A )	130,600	12,800	12,400	7,800	19 円 63 銭
実 績 値 ( B )	132,210	18,919	19,053	12,654	31 円 85 銭
増 減 額 ( B - A )	1,610	6,119	6,653	4,854	
増 減 率 ( % )	1.2	47.8	53.7	62.2	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	134,358	18,177	18,208	10,870	27 円 35 銭

2. 平成 22 年 3 月期通期連結業績予想の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 ( A )	264,000	25,000	24,000	15,000	37 円 75 銭
今 回 発 表 予 想 ( B )	264,000	29,000	27,000	18,000	45 円 30 銭
増 減 額 ( B - A )	0	4,000	3,000	3,000	
増 減 率 ( % )	0.0	16.0	12.5	20.0	
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	264,037	31,166	31,395	19,987	50 円 30 銭

3. 平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想との差異（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A）	121,600	12,800	12,500	7,700	19円38銭
実績値（B）	123,833	18,161	18,310	11,920	30円00銭
増減額（B－A）	2,233	5,361	5,810	4,220	
増減率（％）	1.8	41.9	46.5	54.8	
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成21年3月期第2四半期）	126,187	18,052	18,126	10,929	27円50銭

4. 平成22年3月期通期個別業績予想の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	245,000	23,900	23,000	14,100	35円49銭
今回発表予想（B）	245,000	27,300	25,400	16,500	41円53銭
増減額（B－A）	0	3,400	2,400	2,400	
増減率（％）	0.0	14.2	10.4	17.0	
（ご参考）前期実績 （平成21年3月期）	248,433	30,582	30,893	19,729	49円65銭

5. 差異および修正の理由

《売上高》

第2四半期累計期間の売上高はほぼ予想通りに推移しております。通期の予想についても前回予想を変更しておりません。

《営業利益》

平成22年3月期の最重要課題の一つとして、継続的な経営効率の追求を掲げ、あらゆる経費の見直しや優先順位付けに基づいた研究開発費の効果的使用などにより経営効率の向上に取り組んでおります。これらの取り組み、および、研究開発費を中心に費用が第3四半期以降へずれこんだことにより、第2四半期累計期間の実績値は、前回予想に比べて増益となりました。

また、通期予想数値については、経営効率の向上の取り組みにより、販売費及び一般管理費、製造経費を中心に当初見込んでおりました以上の圧縮が達成できる見通しが立ちましたことから、前回予想から40億円の増益を見込んでおります。

《経常利益・当期純利益》

第3四半期以降、営業外収支において、セプラコール社の株式買付け等に要する資金の調達に伴い支払利息等の営業外費用の増加要因がありますが、経常利益、当期純利益とも前回予想から30億円の増益を見込んでおります。

なお、上記の業績予想にはこのたび子会社化したセプラコール社の業績は含んでおりません。現在、子会社化に伴い発生するのれんや研究開発費等の評価算定を行っているところであり、これらの影響額が確定次第速やかに公表する予定です。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後さまざまな要因により異なる結果となる可能性があります。

以上